

シリーズ 私と大詫間 第5回

～大詫間への想い 思い出等について～

地域の方から大詫間への想いや
小さい頃の思い出などをお寄せい
ただくだ『私と大詫間』シリーズです。



第5回目は...
矢ヶ部 葉子さん(5区)

私は兵庫県の神戸市で生まれました。しかし、昭和20年3月17日、神戸市は大空襲を受け、私は佐賀に疎開してきました。

疎開先に向かう汽車は人で溢れかえっていました。やっと到着した佐賀駅では見ず知らずの人から煎り豆を両手いっぱいいただき、その時の有難さは一生忘れません。佐賀駅からは佐賀線乗り継いで大川駅まで行き、さらに渡し船で大野島に渡り、ここからは歩いて、ようやく大詫間に着きました。

大詫間での食事は、茶色みがかった粉でうどんを打ち、かぼちやの煮物と一緒に毎日食べたことを記憶しています。昭和26年から大詫間村役場で働くようになりました。大詫間の歴史を水(飲み水、農業用水)抜きに語ることはできません。仕事では農業用水の安定確保が大きな課題で、特に平成6年は過去にない大干ばつにみまわれ、クリーク全体が干上がりました。田面は亀裂が走り、赤く枯れていく稲に「稲を枯らすか、塩分の強い水を入れるか」の二者択一を迫られました。悲しいことにその年の稲は全滅でしたが、農業用水を確保するために徹夜で懸命に取り組み、事故もなく、水争いも無かったことは何よりでした。

戦争で家族は離ればなれになり、皮肉にも戦争によって私は大詫間と繋がりができました。愚かで悲惨な戦争が世界から無くなり、平和な時代が永久に続いて欲しいと思います。



報告 大詫間絆ウォーク 4月18日(日)

主催:大詫間まちづくり協議会暮らし絆部会

当初の予定日が悪天候のため翌日に延期して行いました。おかげでお天気に恵まれ、晴天の下、76名が参加し、スタッフと合わせて約100名の参加者が2コースに分かれて出発しました。最終ゴール場所のグラウンドで合流し、食改善の皆さんお手製の美味しいカレーを食べながら楽しく交流しました。今回の写真を公民館に展示していますので皆さん見に来てくださいね。

参加された皆さんより、こんなご感想をいただきました

- いつも通らない道を歩いてとても楽しかった
- 大詫間にはこんな良い所があると再発見できた などなど...



退任のあいさつ

馬場 久美子(公民館支援課へ)



大詫間の優しい皆さんとの穏やかで居心地の良い巣から4月で巣立つことになりました。

自治会やまち協を中心に、校区の皆さんで、もともともと、「みんなが「笑顔の大詫間」」になることを楽しみにしています。大変お世話になりました。

新任のあいさつ

宮田 朋美(開成公民館より異動)



大詫間はとても綺麗な所で地域の皆さんの仲も良く、楽しそうな雰囲気という印象を持ちました。これから大詫間の事をもっとよく知って精一杯頑張りたいと思います。大詫間のより良いまちづくりへのお手伝いをさせていただければ幸いです。ご来館の際はお気軽にお声掛けください。よろしくお願いいたします。

館長コラム

我家にツバメが帰ってきました。一昨年从小屋に巣を作るようになりましたが、その年は完成前に巣が落ちてしまいました。去年はりっぱな巣で卵を温めていたのが何故か途中で寄り付かなくなりました。朝・昼・夕方、日課のように観察していたので警戒したのでしょうか。

もう戻ってこないと思っていたら、2羽のツバメが小屋を来すようになりしました。ツバメは、去年の巣を覚えていて、生きていたら翌年も帰ってくるそうです。雄が先に来て、後から来る雌を待ちます。ちなみに、去年と同じ夫婦だとは限らないそうです。

そのツバメをカラスが狙っています。カラスも生きるために必死、生き物たちの生存競争は過酷です。人間生活も大変ですが、動植物と較べたら平穏です。

5月は春から初夏へと移り変わる時期、新緑はまぶしく、さわやかな風がふき、お出かけには最適な季節です。例年、行楽地は大賑わい、交通機関や道路も大混雑・大渋滞ですが、今年も寂しいものになるようです。

大詫間は農業も麦刈り前、漁業もちょっと一段落です。この時期をいろいろな過ごし方で楽しんでみてはいかがでしょうか。